

幼稚園教育実習における学生の自己評価と実習評価の関係

A Study of Comparison between Student Self Evaluation and Evaluation with Kindergarten.

牛 込 彰 彦
(こども学科 教授)

要旨 本研究は、幼稚園教諭教職課程認定校における実習の充実を図るために行われた。素材として幼稚園教育実習生の自己評価と実習先からの実習評価を用いた。他己評価と自己評価の傾向を調べるとともに、両者を比較検討することにより、実習生の自己認識と客観的評価のずれを探った。その結果、平均よりも評価が低かったものは、他己評価として「保育技術」「子ども理解」のカテゴリーであった。一方、自己評価では、「子ども理解」「保育技術」「保育者としての資質」のカテゴリーであった。また、差異の大きかったものは、「保育者としての資質」「保育技術」のカテゴリーであった。

【キーワード：幼稚園教育実習 自己評価 実習評価】

I. はじめに

幼稚園教諭免許状を取得するためには、学内での講義の他、実際の教育現場における実習が必須となっている。教育実習として4週間の実習を現場で行うこととなる。実習にあたって、事前および事後指導として時間を確保し指導しているが、十分な指導が来ているか否かは、現場からの評価が物語ることとなる。本研究は、幼稚園における実習を取り上げ、実習先からの評価（以下他己評価という）を分析し、本学における幼稚園実習に関する指導の弱点を知り、今後に役立てるという目的を持つ。また、実習前に学生が行った実習評価（以下自己評価という）を分析し他己評価と比較することによって、本学学生の自己認識の傾向を知り、今後の実習指導に役立てるという目的も併せ持つ。

II. 方法

調査対象：平成25年度の本学における2回生80名（有効回答を得られた者のみ）。

調査対象の学生はこども学科乳幼児保育コースに所属し、保育士資格と幼稚園教諭二種免許状の取得を目標としている。本学では、1年次9月に幼稚園教育実習（前期：1週間）、1年次2月に施設実習（12日間）、2年次5月に幼稚園教育実習（後期：3週間）、2年次7月に保育所実習（前半：11日間）、同9月に保育所実習（後半：11日間）を行っている。

材料：図1は、本学で使用している幼稚園教育実習評価表である。評価は、4つのカテゴリーと20

の下位項目から成り立っている。

I 実習態度

- 1 実習状況（出勤時間、挨拶、身だしなみ、言葉づかい等）は適切である。（以下実習状況という）
- 2 実習日誌や指導案等の提出物の期限や指示内容を守る。（以下提出期限という）
- 3 適切な学習意欲・責任感を持って取り組む。（以下学習意欲という）
- 4 明るさや協調性を持って取り組む。（以下明るさという）
- 5 勤務上の諸注意を守って行動する。（以下諸注意という）
- 6 必要な職務内容を学ぼうとする。（以下職務内容という）

II 子ども理解

- 1 子どもの遊びへの理解（以下遊びの理解という）
- 2 子どもの仲間関係への理解（以下仲間関係の理解という）
- 3 子どもの発達段階への理解（以下発達段階の理解という）
- 4 子ども一人一人の興味・関心や言動の背景への理解（以下一人一人の理解という）
- 5 子どもの理解の仕方への工夫（以下子ども理解の仕方という）

III 保育技術・保育計画

- 1 子どもへの接し方・関わり方が適切である（以

幼稚園教育実習評価表

埼玉純真短期大学

こども学科		コース	実習幼稚園名					
学籍番号								
実習生名			園長氏名	印				
実習期間	年 月 日 ~ 月 日 年 月 日 ~ 月 日		指導教諭氏名	印				
項 目	内容	評価	5	4	3	2	1	
実習態度	実習状況（出勤時間、挨拶、身だしなみ、言葉づかい等）は適切である。							
	実習日誌や指導案等の提出物の期限や指示内容を守る。							
	適切な学習意欲・責任感等を持って取り組む。							
	明るさや協調性を持って取り組む。							
	勤務上の諸注意を守って行動する。							
	必要な職務内容を学ぼうとする。							
子ども理解	子どもの遊びへの理解							
	子どもの仲間関係への理解							
	子どもの発達段階への理解							
	子ども一人一人の興味・関心や言動の背景への理解							
	子どもの理解の仕方への工夫							
保育技術	子どもへの接し方・関わり方が適切である。							
	言葉掛けや説明の仕方が適切である。							
保育計画	指導計画への取り組みとその遂行力、反省・評価は適切である。							
	教材や用具の準備、環境整備等への取り組みは適切である。							
教師としての 資 質	教育方針への理解や保育に対する研究心・向上心、創意工夫等がある。							
	情緒・感情が安定している。							
	誠実さや積極性がある。							
	適切な自己洞察がある。							
総合評価	(実習全体を通しての総合的な評価)							
総合所見								

【評価の方法・目安】 5段階評価で、該当するところに○印をご記入ください。

(5「優れている」、4「やや優れている」、3「普通」、2「やや劣る」、1「劣る」)

出席すべき日数	出席日数	欠席日数	遅刻	早退
20 日	日	病気 日 事故 日 その他 日	回 理由：	回 理由：
(前半・後半合計)				

図1 本学の幼稚園教育実習評価表

- 下接し方という)
- 2 言葉掛けや説明の仕方が適切である(以下言葉掛けという)
- 3 指導計画への取り組みとその遂行力、反省・評価は適切である。(以下指導計画という)
- 4 教材や用具の準備、環境整備等への取り組みは適切である(以下教材等の準備という)
- IV教師としての資質
- 1 教育方針への理解や保育に対する研究心・向上心、創意工夫等がある(以下教育方針の理解という)
- 2 情緒・感情が安定している(以下情緒の安定という)
- 3 誠実さや積極性がある(以下誠実さという)
- 4 適切な自己洞察力がある(以下自己洞察力という)
- 5 表情の豊かさや子どもへの愛情、思いやりがある(以下愛情、思いやりという)
- 本研究では、学生が幼稚園後期教育実習に行く前の段階(2年次4月)において本評価表を用い自己評価を行った結果と実習終了後、それぞれの実習先より返送された評価を材料として用いた。評価は20の下位項目に対し5点法を用い、5点を一番高い得点とした。なお、データの一部に欠損があった場合は、そのデータを削除した。

Ⅲ. 結果および考察

1 他己評価

表1は実習先からの評価における項目別の平均であり、グラフにしたものを図2として掲げる。

表1.他己評価の項目別平均値

		他己評価
I-1	実習状況	4.14
I-2	提出期限	3.96
I-3	学習意欲	3.78
I-4	明るさ	3.76
I-5	諸注意	4.14
I-6	職務内容	3.75
II-1	遊びの理解	3.63
II-2	仲間関係の理解	3.41
II-3	発達段階の理解	3.40
II-4	一人一人の理解	3.39
II-5	理解の仕方	3.33
III-1	接し方	3.73
III-2	言葉掛け	3.36
III-3	指導計画	3.55
III-4	教材等の準備	3.73
IV-1	教育方針の理解	3.55
IV-2	情緒の安定	3.91
IV-3	誠実さ	3.80
IV-4	自己洞察力	3.40
IV-5	愛情、思いやり	3.80

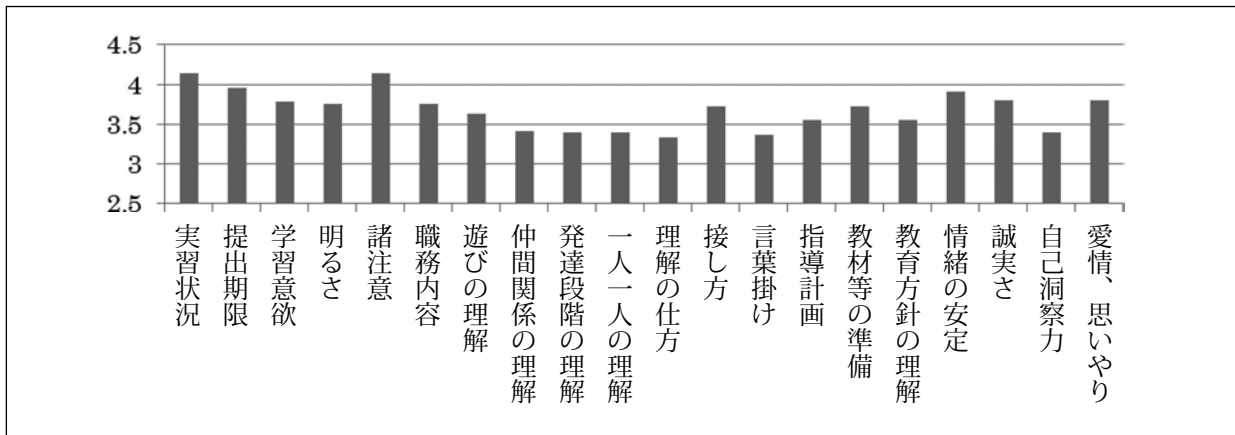


図2 他己評価の項目別平均値

他己評価の高かった項目を順に並べると、I-1 実習状況 I-5 諸注意 I-2 提出期限 IV-2 情緒の安定 IV-3 誠実さ IV-5 愛情、思いやり I-3 学習意欲 I-4 明るさ I-6 職務内容 III-1 接し方 III-4 教材等の準備 II-1 遊びの理解 III-3 指導計画 IV-1 教育方針の理解 II-2 仲間関係の理

解 II-3 発達段階の理解 IV-4 自己洞察力 II-4 一人一人の理解 III-2 言葉かけ II-5 理解の仕方の順になっている。各項目の平均値は、3.68であった。平均値に比べ評価が高いものと低いものを項目別に分けたものを表2として掲げる。

表2.他己評価における平均値よりも高かった項目と低かった項目

平均値よりも高かった項目	I-1実習状況 I-5諸注意 I-2提出期限 IV-2情緒の安定 IV-3誠実さ IV-5愛情、思いやり I-3学習意欲 I-4明るさ I-6職務内容 III-1接し方 III-4教材等の準備
平均値よりも低かった項目	II-1遊びの理解 III-3指導計画 IV-1教育方針の理解 II-2仲間関係の理解 II-3発達段階の理解 IV-4自己洞察力 II-4一人一人の理解 III-2言葉かけ II-5理解の仕方

平均値よりも高かった項目及び低かった項目を4つのカテゴリー別に見ると表3及び図3となる。

表3.他己評価における平均値よりも高かったカテゴリーと低かったカテゴリー

	平均値より高かった項目	平均値より低かった項目
実習態度	100%	0%
子ども理解	0%	100%
保育技術	50%	50%
保育者としての資質	60%	40%

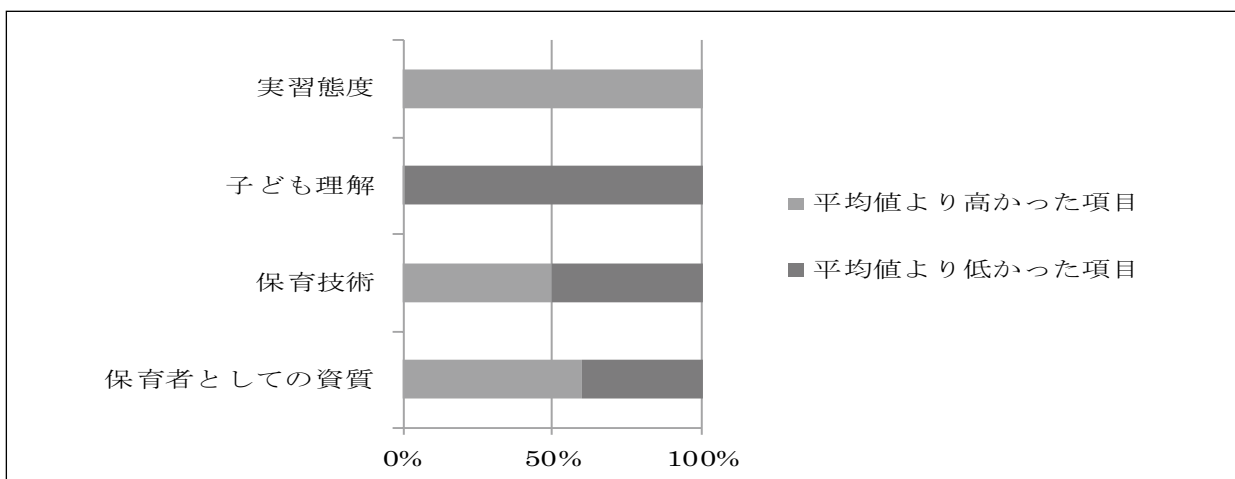


図3 カテゴリー別に見た平均値との比較（割合）

表3及び図3からわかるように、カテゴリーⅠの実習態度及びカテゴリーⅣの保育者としての資質は平均値よりも高い割合が多く、カテゴリーⅢの保育技術およびカテゴリーⅡの子ども理解では

同等又は低くなっている。平均値と同等又は低いカテゴリーⅡ及びⅢの下位項目について詳しくみると、表4のようになる。

表4 他己評価が低かったカテゴリーにおける下位項目

カテゴリー ()内はカテゴリー平均	下位項目 (他己評価が低かった順)
Ⅱ 子ども理解 (3.43)	Ⅱ-5理解の仕方 Ⅱ-4一人一人の理解 Ⅱ-3発達段階の理解 Ⅱ-2仲間関係の理解 Ⅱ-1遊びの理解
Ⅲ 保育技術 (3.59)	Ⅲ-2言葉かけ Ⅲ-3指導計画

この結果から、今後「子ども理解」や「保育技術」に関する指導の一層の充実が望まれる。

1) 子ども理解

適切な保育・教育を行う為には、その対象である子どもを理解することが前提となる。子どもを理解するための一番の近道は、直接子どもと接することである。保育・教育者は、長年の経験の積み重ねから子どもを深く理解するに至ることが出来る。しかしながら、学生は実際に子どもと触れ合う機会が少なく、講義において知識として子どもを理解することとなる。学生を実習に出す際に「目の前にいる子どもとしっかりと向き合い、理解するように。」などの言葉掛けをするが、学生にその意味は伝わりにくいと考える。それは、学生が

子どもを見る視点を持っていないからである。指導においては、どのような具体的な視点を持って子どもを見、理解するかを伝えることが必要と考える。また、個人差や個性についても同様のことがいえる。更に、学生は目の前にいる子どもに目を向けることは出来るが、子どもを集団として捉えることは経験が少なく、その理解には困難を伴う。この点においても適切な視点を与えることで理解は早まると考える。

2) 保育技術

言葉掛けに関しては、やはりこれも対象を理解することが基本となる。指導計画は、作成の経験を重ねることで力量は増すと考えられる。

2 自己評価

表5は自己評価における項目別の平均であり、グラフにしたものを図4として掲げる。

表5 自己評価の項目別平均値

		自己評価
I-1	実習状況	3.85
I-2	提出期限	3.83
I-3	学習意欲	3.43
I-4	明るさ	3.69
I-5	諸注意	3.69
I-6	職務内容	3.50
Ⅱ-1	遊びの理解	3.53
Ⅱ-2	仲間関係の理解	3.40
Ⅱ-3	発達段階の理解	3.18
Ⅱ-4	一人一人の理解	3.24
Ⅱ-5	理解の仕方	2.96
Ⅲ-1	接し方	3.40
Ⅲ-2	言葉掛け	2.68

Ⅲ－3	指導計画	2.80
Ⅲ－4	教材等の準備	3.03
Ⅳ－1	教育方針の理解	2.85
Ⅳ－2	情緒の安定	3.45
Ⅳ－3	誠実さ	3.19
Ⅳ－4	自己洞察力	2.93
Ⅳ－5	愛情、思いやり	3.61

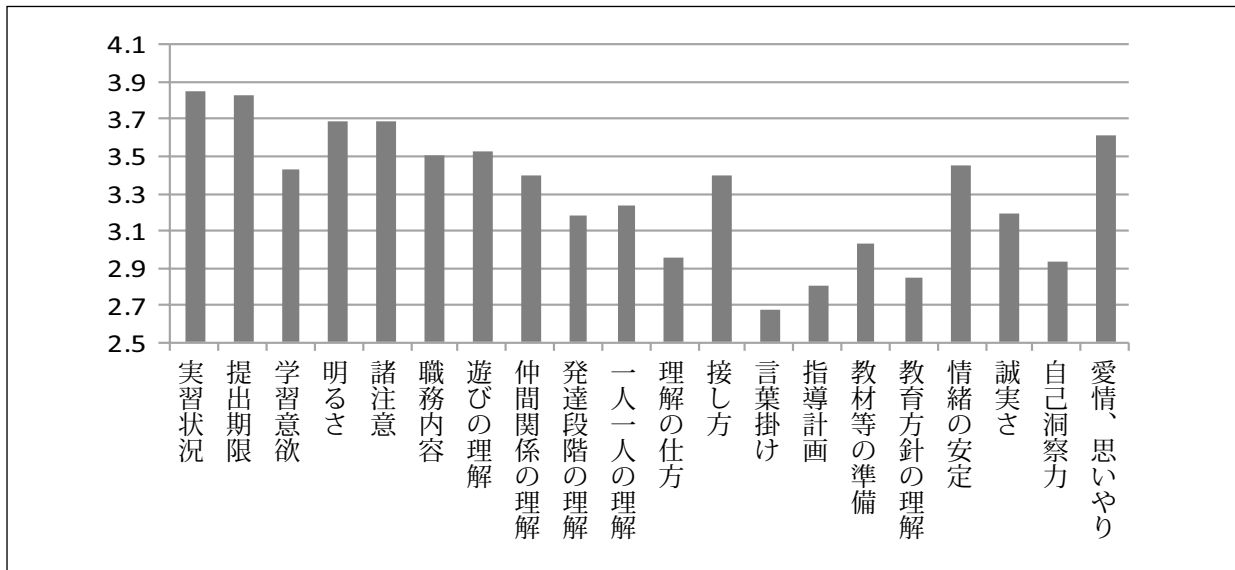


図4 自己評価の項目別平均値

自己評価の高かった項目を順に並べると、Ⅰ-1 実習状況 Ⅰ-2 提出期限 Ⅰ-4 明るさ Ⅰ-5 諸注意 Ⅳ-5 愛情、思いやり Ⅱ-1 遊びの理解 Ⅰ-6 職務内容 Ⅳ-2 情緒の安定 Ⅰ-3 学習意欲 Ⅱ-2 仲間関係の理解 Ⅲ-1 接し方 Ⅱ-4 一人一人の理解 Ⅳ-3 誠実さ Ⅱ-3 発達段階の理解 Ⅲ-4 教材等の準備 Ⅱ-5 理解の仕方 Ⅳ-4 自己洞察力 Ⅳ-1 教育方針の理解 Ⅲ-3 指導計画 Ⅲ-2 言葉かけの順になっている。各項目の平均値は、3.31であった。平均値に比べ評価が高いものと低いものを項目別に分けたものを表6として掲げる。

表6 自己評価における平均値よりも高かった項目と低かった項目

平均値よりも高かったもの	Ⅰ-1 実習状況 Ⅰ-2 提出期限 Ⅰ-4 明るさ Ⅰ-5 諸注意 Ⅳ-5 愛情、思いやり Ⅱ-1 遊びの理解 Ⅰ-6 職務内容 Ⅳ-2 情緒の安定 Ⅰ-3 学習意欲 Ⅱ-2 仲間関係の理解 Ⅲ-1 接し方
平均値よりも低かったもの	Ⅱ-4 一人一人の理解 Ⅳ-3 誠実さ Ⅱ-3 発達段階の理解 Ⅲ-4 教材等の準備 Ⅱ-5 理解の仕方 Ⅳ-4 自己洞察力 Ⅳ-1 教育方針の理解 Ⅲ-3 指導計画 Ⅲ-2 言葉かけ

自己評価について平均値よりも高かった項目及び低かった項目を4つのカテゴリー別にみると表7及び図5となる。

表7 カテゴリー別に見た平均値との比較（割合）

	平均値より高かった項目	平均値より低かった項目
実習態度	100%	0%
子ども理解	40%	60%
保育技術	25%	75%
保育者としての資質	40%	60%

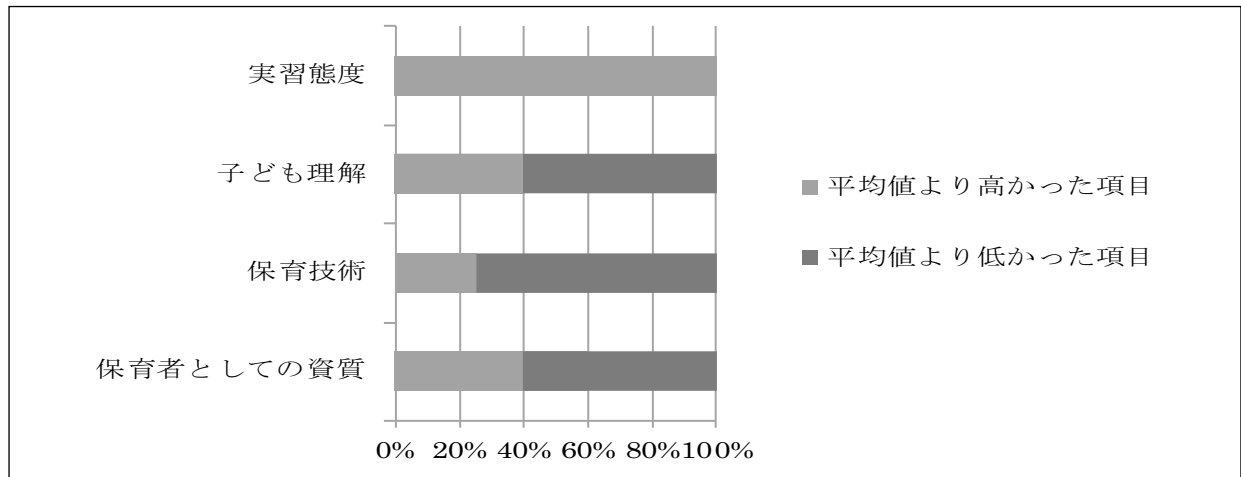


図5 カテゴリー別に見た平均値との比較（割合）

表7及び図5からわかるように、カテゴリーⅠの実習態度のみ、平均値よりも高い割合が多く、その他のカテゴリーⅡの子ども理解、カテゴリーⅢの保育技術、カテゴリーⅣの保育者としての資

質が平均値よりも低い割合が多かった。平均値よりも低いカテゴリーⅡ，Ⅲ，Ⅳの下位項目について更に詳しくみると、表8となる。

表8 自己評価が低かったカテゴリーにおける下位項目

カテゴリー（ ）内はカテゴリー平均	下位項目（他己評価が低かった順）
Ⅲ保育技術（2.98）	Ⅲ-2言葉掛け Ⅲ-3指導計画 Ⅲ-4教材等の準備
Ⅳ保育者としての資質（3.21）	Ⅳ-1教育方針の理解 Ⅳ-4自己洞察力 Ⅳ-3誠実さ
Ⅱ子ども理解（3.26）	Ⅱ-5理解の仕方 Ⅱ-3発達段階の理解 Ⅱ-4一人一人の理解

自己評価が低かったカテゴリーにおける下位項目では、カテゴリーⅢの保育技術では、Ⅲ-2言葉掛け Ⅲ-3指導計画 Ⅲ-4教材等の準備が、またカテゴリーⅣの保育者としての資質では、Ⅳ-1教育方針の理解 Ⅳ-4自己洞察力 Ⅳ-3誠実さが、カテゴリーⅡの子ども理解では、Ⅱ-5理解の仕方 Ⅱ-3発達段階の理解 Ⅱ-4一人一人の理解 が全

体の平均値よりも低くなっている。

3 他己評価と自己評価

表9は、他己評価と自己評価の項目別比較及びその差異（他己評価－自己評価）を示したものである。グラフを図6として示した。また、カテゴリーとしての比較を表10及び図7に示した。

表9 他己評価と自己評価の項目別比較およびその差異

		他己評価	自己評価	差（他－自）
I－1	実習状況	4.14	3.85	0.29
I－2	提出期限	3.96	3.83	0.13
I－3	学習意欲	3.78	3.43	0.35
I－4	明るさ	3.76	3.69	0.07
I－5	諸注意	4.14	3.69	0.45
I－6	職務内容	3.75	3.50	0.25
Ⅱ－1	遊びの理解	3.63	3.53	0.10
Ⅱ－2	仲間関係の理解	3.41	3.40	0.01
Ⅱ－3	発達段階の理解	3.40	3.18	0.22
Ⅱ－4	一人一人の理解	3.39	3.24	0.15
Ⅱ－5	理解の仕方	3.33	2.96	0.37

Ⅲ－１	接し方	3.73	3.40	0.33
Ⅲ－２	言葉掛け	3.36	2.68	0.68
Ⅲ－３	指導計画	3.55	2.80	0.75
Ⅲ－４	教材等の準備	3.73	3.03	0.70
Ⅳ－１	教育方針の理解	3.55	2.85	0.70
Ⅳ－２	情緒の安定	3.91	3.45	0.46
Ⅳ－３	誠実さ	3.80	3.19	0.61
Ⅳ－４	自己洞察力	3.40	2.93	0.47
Ⅳ－５	愛情、思いやり	3.80	3.61	0.19

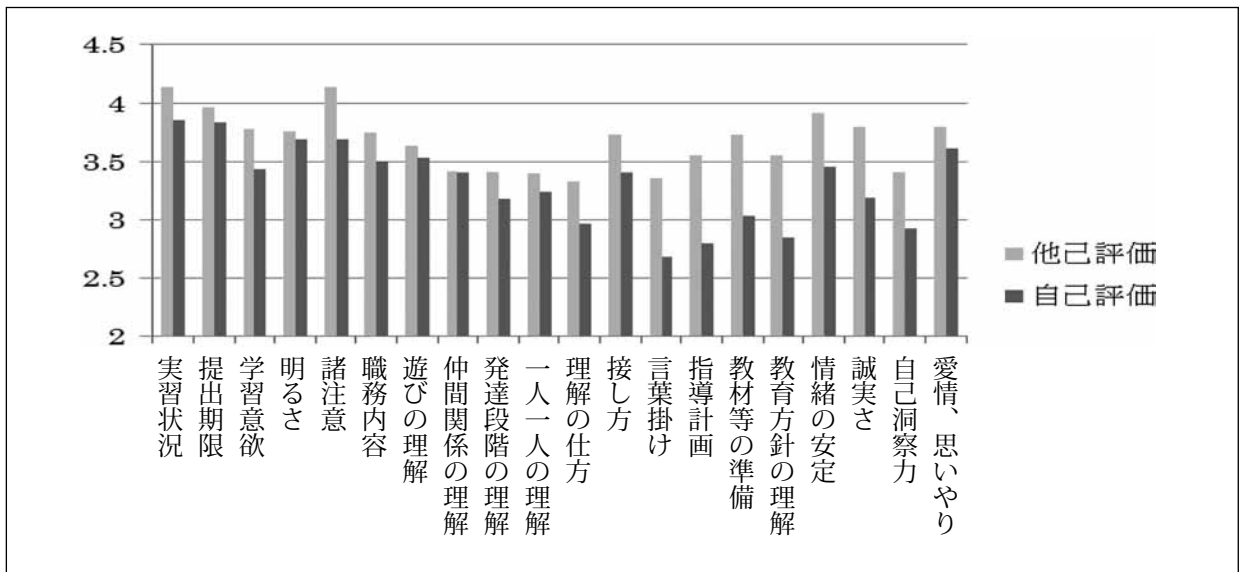


図 6 他己評価と自己評価の項目別比較およびその差異

表 10 他己評価と自己評価のカテゴリー別比較及びその差異

		他己評価	自己評価	差（他－自）
I	実習態度	3.92	3.67	0.25
Ⅱ	子ども理解	3.43	3.26	0.17
Ⅲ	保育技術	3.59	2.98	0.61
Ⅳ	保育者としての資質	3.69	3.21	0.48

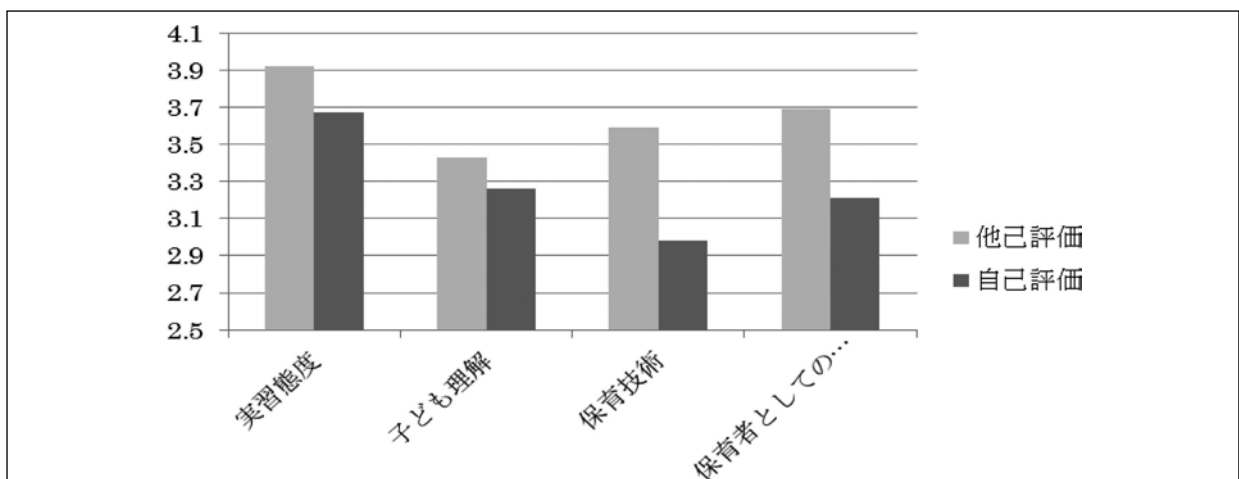


図 7 他己評価と自己評価のカテゴリー別比較及びその差異

他己評価と自己評価を比較した結果、すべての項目で他己評価が自己評価を上回っている。自己評価が低いことは「謙虚」であるということも受け取れるが、「自信がない」「自己肯定感が低い」とも捉えることが出来る。もっと自分を信じて、自信をもって実習に取り組んでも良いのかもしれない。また、カテゴリー別にその差異をみると、Ⅰの実習態度とⅡの子ども理解に関しては、双方とも自己評価の方が低いことはあるが、同じような傾向があり、その差異は少ない。一方、Ⅲの保育技術とⅣの保育者としての資質を比較するとかなり大きな差がある。

Ⅳ. 結論

今回、幼稚園教育実習における、他己評価と自己評価について検討した。他己評価の分析から、今後、「子ども理解」「保育技術」の分野における指導を充実させる必要性があることが分かった。「子ども理解」においては、その対象である子どもをどのように捉えるかの具体的視点の指導が有効であるとする。また、「保育技術」においては、指導計画の習熟などが有効であるとする。また、他己評価と自己評価の比較からは、全体的に自己評価が低いことが分かった。また、その差異に着目すると、「実習態度」および「子ども理解」ではその差は少なく、傾向も同様であり、おおむね正当な自己認識が出来ていると考えられる。一方、「保育技術」及び「保育者としての資質」においては、自己評価がかなり低くその差異が大きいことより、正当な認識が出来ていないことが分かった。

短期大学において、2年という学生生活の中で学び社会へと巣立つ。限られた時間の中でより効果的な指導ができるよう、教育の内容と方法を更に工夫する必要がある。

参考文献

教育実習・保育実習における学生自己評価と幼稚園評価・保育所評価の比較考察
松本学 国際学院埼玉短期大学 研究紀要 63－72

—大学・短期大学学生の評価結果の分析を通して

—

山田 朋子ら 中村学園大学・中村学園短期大学
部研究紀要 第42号 2010 225－236

保育実習の評価に関する研究

前徳 明子 小池学園研究紀要 創刊号 83－96

教育実習保育実習における実習評価と自己評価の比較

大塚健樹ら 盛岡大学研究紀要 19－23

保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱにおける実習園評価および自己評価の評価観点の際に関する研究

堀田正央・松寄洋子 埼玉学園大学紀要（人間学部編） 第11号 131－144

付記

この論文は、平成25年度全国保育士養成協議会研究大会においてポスター発表をしたものを加筆修正したものである。